

広島市立船越小学校 平成24年度 学校経営重点計画

平成24年4月1日

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもを育てる
 (めざす子ども像)
 よく考える子・思いやりのある子・たくましい子

2 目指す姿(学校像・児童像・教師像)

(めざす学校像)
 ○子どもが意欲的に学び、豊かな人間関係を築く学校
 ○子ども・保護者・地域の期待に応える、開かれた学校
 ○教職員自ら、創意・工夫を重ねる学校

3 現状と課題

本校は安芸区の行政・文化各機関が置かれる校区にあり、区内の中核的な学校である。総合的な学習の時間や教科の学習ではゲストティーチャーが参画したり、民生面でも積極的に支援するなど、地域の教育力がある。しかし、一方で、複雑な家庭環境等により様々な課題を持ち、支援・援助を必要とする児童が増加している。また、全国学力・学習状況調査や「基礎・基本」定着状況調査において、年度によっては県平均通過率を下回るなど、基礎・基本の学力については継続して課題がある。体力面においても、新体力テストでは、ほとんどの学年が8項目中5項目が県平均を下回るという結果であり、体力の向上も喫緊の課題である。

4 目標

<p>〔中期経営重点目標〕 「基礎・基本」定着状況調査では、国語科・算数科の平均通過率を市平均通過率以上にする。また、全国学力・学習状況調査(A問題・B問題)の平均正答率を全国平均以上とする。新体力テストでは、8項目について全ての学年で県平均以上にする。「あいさつ100%」を目指し、学校内外で自主的にあいさつできる児童と、自己肯定感を持つ児童を100%にする。</p>	<p>〔評価指標〕 全国学力・学習状況調査の平均正答率、「基礎・基本」定着状況調査の平均通過率の割合 新体力テストの項目別平均値 児童・保護者・教職員アンケート調査の割合 年間平均残食率</p>
---	---

短期経営重点目標(1年目)	評価指標	主な具体的方策
算数科の学習において、操作的活動等の効果的な学習指導の工夫について授業改善を図り、基礎的な力の向上を図る。	算数科における基礎学力が向上したと実感できる児童・保護者・教職員の割合(年度末アンケート調査で児童・保護者・教職員ともに80%以上)	学級担任全員が算数科の授業を公開し、授業研究を深める。(ブロック別の低・中・高学年の公開授業において講師を招聘し、指導・助言を受け授業改善を図る。) ----- 算数科の領域別の系統性を明らかにするとともに、児童のつまずきの実態を的確に把握し指導に生かす。 ----- 帯タイムや算数科の授業の中に反復学習を取り入れ、基礎学力の系統的定着を図る。
「あいさつ100%」の徹底を図り、自主的にあいさつできる児童とともに自己肯定感を持つ児童を育てる。	「自主的にあいさつをすることができる」「学校が楽しいと感じている」と実感できる児童・保護者・教職員の割合(年度末アンケート調査で90%以上)	学級指導や道徳などの授業、児童会の活動(あいさつ標語の募集、あいさつ運動への取組など)を通して、あいさつすることの大切さに気づかせ、実践力を養う。 ----- 保護者や地域と連携して、あいさつが交わされる環境作りに努める。(学校・学年だよりや参観日、登下校指導の機会などを利用して、学校の取組を知らせ協力を求める。) ----- 船小プレイランド、1年生を迎える会や6年生を送る会などの児童会行事、学年・学級行事、様々な地域行事などを通して、自己有用感や自己肯定感を育てる。
運動に意欲的に取り組み、体力を向上させる活動に取り組む。(食育、健康教育を積極的に推進する。)	外遊びに親しみ、運動に意欲的に取り組んだとふり返る児童・保護者・教職員の割合(年度末アンケート調査で児童・保護者・教職員ともに80%以上)	昨年度実施した握力、柔軟性を高める運動を体育の授業の中に取り入れる。 ----- 大休憩を活用し、体力を高める運動を実施する。(なわとび大会ーなわとび名人の紹介、リレー大会など) ----- 体力アップハンドブックを年間通して活用し、自己のめあて達成に向けて運動に取り組ませる。(体力アップ認定書の受賞) ----- 給食指導や食をテーマとした授業を通して、食生活の重要性を理解させる。(配食については、全員に配りきるようにし、主食とおかずを交互に食べるように指導するとともに、完食をした学級には「おかず券」を配布するなど、残食率の低下を図る。)

